２ 各学部の令和5年度FD活動の概要報告

（１）家政学部

１．令和5年度家政学部FD委員会構成

委員長 ： 須藤良子（ライフデザイン学科）

委員 ： 原木英一（被服学科） 岩瀬靖彦 玉木有子（食物学科） 矢野 博之（児童学科）
李憲（ライフデザイン学科）

大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会 ： 市川 博（家政学部長）

２．授業改善のためのアンケート

令和5年度も、UNIPAを利用してのWEB方式とし、コロナ禍の影響もにらんで、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。

前期（実施時期：学期末）・後期（同、学期末）とも同じ設問構成とし、設問数全10問（選択式は6段階）により執り行った。回答依頼は、教員の任意とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。実施期間は、前期は令和5年7月10日（月）から7月22日（土）までで実施。後期は令和5年12月11日（月）から12月23日（土）までで実施した。

以下、「授業改善のためのアンケート」調査の実施とその集計結果等、概況を記す。

① 前後期実施状況

家政学部 回答者数／履修者数 前期：12,369 名／29,230 名 （回答率42.32%*昨年32.9%）
後期：10,104 名／28,898 名 （回答率35.0% *昨年33.6%）

② 総評：家政学部全体として

「満足度」（Q10）の平均点は、前期4.45、後期4.40であった。前年度は前期4.44、後期4.40であったことから、前期は0.03ポイント上回り、後期昨年度同様の結果となった。また、「教員からのフィードバック」（Q8）は、今年度より追加した設問で、前期4.19、後期4.19で、ある程度効果的だったことがわかる。

③ 家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「食物学専攻専門科目」の後期では多くの項目で全体の平均点を下回っている。
Q7（授業外学修時間）を見てみると、専門科目では0.1ポイント以上上回る結果が多くみられた。Q10（満足度）を見てみると、0.1ポイント以上下回る結果はみられるが、上回る結果はなかった。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

④ 家政学部全体と授業形態別を比較して

「実技」「実験」「実習」が全体の平均点を上回る項目が多い結果であった。「実技」ではQ7（授業外学習時間）は全体の平均点を下回っている。Q6（授業への参加）を見てみると、全体を大きく上回る授業形態が多いが、「講義」では前後期ともに下回っている。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

⑤ 家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

例年同様に、「1～15名」が全体の平均点を上回る項目が多く、クラスサイズが大きい程、低くなる傾向である。Q6（授業への参加）を見てみると、「1～15名」と「16～30名」が前後期ともに0.1ポイント以上上回っており、「51～75名」と「101名以上」で0.1ポイント以上下回っている。Q8（教員からのフィードバック）を見てみると、「1～15名」「16～30名」が前後期ともに0.1ポイント以上上回っており、101名以上」では0.1ポイント以上下回っている。

⑥ 家政学部全体と５学部所属学科専攻別を比較して

「環境情報学」が全体の平均点を上回る項目が多く、「食物学」、「管理栄養士」、「児童教育」、「コミュニケーション文化」が下回る項目が多い結果であった。Q8（教員からのフィードバック）を見て　みると、「被服」では前後期、「食物学」と「管理栄養士」は後期が0.1ポイント以上下回り、「環境情報学」では前後期ともに0.1ポイント以上上回った。所属学科によって求めるフィードバックが異なっているのかもしれない。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

３．学部専任教員によるFD報告

今年度も昨年度と同様に、後期授業アンケート結果も示された後、令和5年3月の年度末（3月18日受け取り期日）とし、下記のA～Dの項目について、一人当たりの総記述量が15～20行（最大800字相当）に収まるよう報告文の作成を依頼し、各教員からFD報告文を回収することとした。

質問項目については、昨年度のものを参考に、その後のコロナ禍等の諸対応の状況もにらみながら、令和5年度の状況をふまえ、FD委員会にて検討した結果、昨年度と同等の設問を設定した。

以下A～Dの4項目の中から自由選択式で、記名入り報告文を各教員からメールにて回収した。

項目A：　今年度の授業アンケート実施科目のうち1科目を選択し、その結果を踏まえた次年度以降の取り組みについて記して下さい。

項目B：　対面授業が復活しましたが、その利点および問題点を挙げてください。

項目C：　対面授業が復活したことに伴い、成績評価の対応でどのような利点および問題点がありましたか？

項目D：　アクティブ・ラーニングを実施した授業があれば、その効果や問題点を挙げてください。

４．本年度の家政学部FD委員会による主な報告・審議事項

令和5年5月19日（金）令和4年度「家政学部FD活動報告書」提出と学部教員への頒布（PDF 方式）

第1回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（5月23日（火））：①「授業改善のためのアンケート」実施科目（案）の検討、②家政学部内FD研修会の企画検討について

第2回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（令和6年2月14日（水））：UNIPA による「授業改善のためのアンケート」実施結果をふまえた令和5年度FD活動報告書作成に向けての確認

なお、令和5年度の活動報告の詳細については「2023年度家政学部FD報告書」を参照されたい。

「家政学部FD報告書」のアンケート分析については過年度同様、株式会社教育ソフトウェアに外部委託し、令和5年2月14日（木）に発注、3月29日（金）に納品された。

５．次年度への課題と引き継ぎ事項

・家政学部としての学部内FD活動の検討と実施（*コロナ対策の緩和が見えてきた上での、今後のFD活動の在り方の模索と研修企画の立案）

・令和6年度の「授業改善のためのアンケート」の適切な実施のための委員会としての留意事項の確認、ならびに、アンケート結果からのフィードバック等活用についての学部内検討

以上

（２）文学部

2023 年度（令和 5 年度）の文学部 FD 活動は、前年度に引き続き、従来の活動予定を一部変更して実施した。例年、学科ごとに「授業担当者懇談会」、「保証人と教員の懇談会」、「公開授業」、「学会活動」等を実施するが、「保証人と教員の懇談会」と「公開授業」については実施を見送り、その点では規模を縮小しての活動内容であった。2021 年度（令和 3 年度）より開始した教員の学生との懇談会（以下、「文学部学生懇談会」とする）については、今年度は学科ごとの開催としたため、「4. 学科の FD 活動」に記載する。対面にて直接学生からの声を集約するという点で大きな意義のある活動であった。

１．公開授業

新型コロナウィルス感染症の影響が長期化しており、今年度も公開授業の実施を見送った。ただし、文学部将来検討委員会からの案内に基づいて例年おこなわれる高大連携事業の公開授業は、今年度も実施されている。

２．授業担当者懇談会

例年実施されている授業担当者懇談会については、今年度も予定通り 5 月に各学科にて実施された（日本文学科：5 月 13 日、英語英文学科：5 月 13 日、コミュニケーション文化学科：5 月 13 日）。学科ごとに実施スタイルは様々であるが、授業の進め方等を中心に常勤・非常勤教員との間で様々な情報提供、意見交換がなされた。

３．保証人と教員の懇談会

千鳥会総会に併せて例年実施している保証人と教員の懇談会は、今年度も実施されなかった。

４．学科の FD 活動

今年度は、文学部学生懇談会を学科ごとに実施した。本懇談会の目的は、文学部の教育環境、授業、学生生活全般に関して、授業評価アンケート等では届かない多様な意見や要望を、学生との懇談を通じて集約することにある。以下では、各学科の実施状況について述べる。

日本文学科では、2023 年 11 月 16 日の昼休みに対面で学生懇談会を実施した。学部 FD 委員の 2 名が参加し、学生からは 3 年生 1 名、4 年生 3 名の参加があった。当日は欠席であったが、3 年生 1 名からは、別途意見を寄られた。

英語英文学科では、2023 年 12 月 21 日の昼休みに実施した。学部 FD 委員 2 名および英語英文学科学科長が参加した。参加した学生の数は、3 年生が 3 名であった。

コミュニケーション文化学科では、2023 年 12 月 18 日の昼休みに実施した。学部 FD 委員 2 名およびコミュニケーション文化学科学科長が参加した。参加した学生の数は、3 年生が 1 名、2 年生が 2 名、1 年生が 4 名の合計 7 名であった。

事前の広報としては、学科ごとにポスターを作成し、学生が目にしやすい本館の各所に掲示した。また、manaba のコースニュースや授業時の案内を通じて学生への周知に努めた。学生の参加に当たっては事前の申し込みは不要とし、気軽な参加を促した。

学生との懇談は例年同様に自由討議形式とし、学生からの意見・要望等を集約することに徹した。授業履修、キャンパスライフ、留学等について多くの意見・要望が披露され、充実した懇談会となった。

懇談会を通じて学生から得られた意見・要望等は、「2023 年度　大妻女子大学文学部　FD 活動報告書」の一項目にまとめ、文学部長、日本文学科長、英語英文学科長、コミュニケーション文化学科長、文学部教務委員長、文学部学生委員長、教育支援センター部長、学生支援センター部長に報告した。内容を共有いただき、今後に向けての検討、改善に活用いただけると幸いである。

その他、学科ごとに定例の学科会議や、臨時に開催される学科内の教員懇談会などの場において、授業の実施方法や学生への対応等について様々な情報の共有や意見交換がおこなわれた。

５．学会活動

学会活動についても、引き続くコロナ禍の影響に配慮しつつ、新入生歓迎会、総会、講演会、例会、プレゼンテーション大会、レシテーションコンテスト、卒業論文発表会等、各学科学会にて様々な活動が実施された。

６．授業改善のためのアンケート

例年実施されている「授業改善のためのアンケート」は、今年度も前期と後期の 2 回、前期は 7 月 10 日（月）から 22 日（土）、後期は 12 月 11 日（月）から 23 日（土）の期間に学内ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT にてオンラインで実施された。アンケートの実施対象としては、これまでの方針に従い、少人数履修者科目や特殊な実施形態の科目のような例外を除いて、原則として全ての授業を対象として実施された。

授業評価アンケートの資料「文学部全体」に示されたアンケート回答者数および回答者数の受講者数に占める割合（以下、回答率）は次の通りである。アンケート回答者数（括弧内は昨年度）は、前期 10,773（8,891）名、後期 8,909（8,598）名、前期と後期の回答者数を合算した総数は 19,682（17,489）名であり、昨年度より増加している。また、回答率（括弧内は昨年度）も、前期は 45.13（36.51）％、後期は 38.25（37.47）％、平均して 41.69（36.99）％であり、これも昨年度と比べると増加している。今年度は学生へのアンケート周知回数が多く設定され、前期に 7 回（昨年度は 2 回）、後期に 9 回（昨年度は 4 回）行われたことが、回答者数と回答率の増加につながったと評価できよう。なお、今年度の全体回答率（前期：41.7％、後期：35.6％、平均：38.7％）と比較すれば、本学部の回答率はやや高くなっている。今後も、回答者数と回答率の増加傾向を維持すべく、学生のアンケートへの積極的な回答を促す方法を検討する必要がある。

なお、アンケート設問に対する回答結果としては、授業の進め方、授業成果、授業への満足度等について、昨年度同様に全体を通じて一定程度の高い評価が示された。

以上

（３）社会情報学部

１．令和５年度社会情報学部 FD 委員会構成

委員長 松本暢子（環境情報学専攻）、委員：山崎志郎(社会生活情報学専攻主任)、若林佳史（社会生活情報学専攻）、細谷夏実(環境情報学専攻主任)、市村哲（情報デザイン専攻主任）、宮崎美智子（情報デザイン専攻）、原田龍二（語学代表）、オブザーバー：関えいこ（学務助手：庶務・記録）。

２．本年度の FD 活動の概要

今年度は社会情報学部が組織的な FD 活動を開始してから 22 年目にあたる。これまでの活動の成果を継承しつつ、教育現場に多大な影響をもたらすと思われる生成 AI についての研修会を行ったほか、コロナ禍で実施できなかった公開授業の再開など、FD 活動に取り組んだ。活動の企画や実施においては、定期的な委員会でのオンライン審議を中心に行った。また、Google Drive 上の共有フォルダの活用により、より緊密な情報共有・意見交換に努めた。なお、活動の詳細については、『令和５年度大妻女子大学社会情報学部ＦＤ活動報告書』に報告している。

① 学生との意見交換会の開催

学生を交えた FD 活動が求められており、11 月 1 日の 5 限に教員と学生の意見交換の場を設け、オンラインで実施した。テーマは、昨年同様「入学当初の達成目的からみた社会情報学部の教育内容」とし、入学当初の目的と達成度からカリキュラムや教育内容について話し合った。

② FD 研修会および生成 AI に関する事前調査の実施

12 月 23 日に、FD 研修会「生成 AI と学部教育」を実施した。事前に専任教員を対象とした生成 AI に関する調査を行うとともに、藤村考教授による講演を行った。研修会はオンライン形式で行い、欠席者は録画視聴とした。

③ FD 研究会の実施

特定枠プロジェクト研究への助成を毎年行っており、小野茂教授による「PROG コンピテンシーテスト―2022 年度プロジェクト研究（特定枠）―」の報告があり、参加者からの質疑応答が行われた。

④ 特定枠プロジェクト研究の募集・実施

特定枠プロジェクト研究の助成対象を募集した結果、以下の研究に助成した。

研究テーマ：

「環境と情報の連結による学生の主体的学びと社会への情報発信への PBL プログラムの開発」
研究参加者：木下　勇（代表）　磯山直也

「本学におけるメタバース活用のノウハウ獲得」　研究参加者：市村　哲（代表）　中野希大

⑤ 入学時の学生生活調査アンケートの実施

新入生に対して 4 月に「入学時の学生生活調査アンケート」を実施した。アンケートは Google Forms を利用して匿名性を確保しつつ行った。

⑥ 卒業時の学生生活調査アンケートの実施

卒業時の学生生活調査アンケートを 12 月中旬～1 月末に Google Forms を利用して実施した。大学生活を振り返り、目的達成度や満足度をはかる調査であるが、回収率が芳しくなく、来年度は実施方法も含めた対応が必要である。

⑦ 「良い授業評価のために」への専攻別取組み

生活専攻ではゼミ（アンケート調査、および議論）、環境専攻では 1 年次配当必須科目「環境情報学基礎演習」、情報専攻では 1 年次必修科目「情報デザイン基礎演習」において、 「授業改善のためのアンケート」の目的や位置づけ及びその意義、設問の意図などの解説を行った。

⑧ オフィスアワーの設定

大学 HP の教員紹介に掲載されているオフィスアワーの実施方法につき、対面形式とオンライン形式が併用される授業形態に応じた対応を行った。オフィスアワーの実施方法（特に、オンラインでのオフィスアワー実施の場合の URL 等）を周知し、例年通り 90 分の教員のアクセスを確保することとした。

⑨ 「授業改善のためのアンケート」に関する教員の意見書の提出

授業評価アンケートの結果に関する教員の意見書（前期、後期各 1 科目）の提出をまとめ、学部教員に配布した。来年度以降は、学部内での公開を WEB 化することを決めた。

⑩ 公開授業の実施

コロナ禍で 2020 年度以降、実施していなかった公開授業を再開した。公開する授業は本学部教員の担当する授業すべてとした。なお、オンライン授業における参観は除外した。今年度は、公開期間を後期の 1 か月間（10 月 17 日（月）～11 月 20 日（土））とし、FD 委員が中心となって参観した。

⑪ 休講の実態調査

例年通り、教員が提出した休講届をもとに、休講数及び補講状況を把握した。

３．その他

保護者懇談会を学部主催で文化祭に合わせて、10 月 22 日に開催した。保護者向けの就職状況の説明後、専攻別学年別に保護者と教員の懇談が行われた。多くの保護者の参加を得て盛会であった。

一方、FD 活動として行っている各種アンケート調査における回収率は、WEB 化以前と比較すると低下しており、調査結果の分析やその活用において由々しき状況となっている。とりわけ、今年度の卒業時の学生生活アンケート調査は回収率が低く、統計的分析には耐えないものとなっており、来年度への引継ぎ事項となっている。学生がこうした調査の意義を理解し、どのように対処すべきかを考えるために、「良い授業評価のために」として取り組んでいるが、こうした取り組みを含めた調査結果等の学生へのフィードバックについても検討していくことが必要となっている。

（４）人間関係学部

１．令和５年度人間関係学部 FD 委員会構成

齊藤豊（人間関係学部学部長）　福島哲夫（人間関係学科長）　上野優子（人間福祉学科長）
伊藤美登里（人間関係学科社会学専攻）　三好真（人間関係学科社会・臨床心理学専攻）
山本真知子（人間福祉学科：人間関係学部 FD 委員長）

２．令和５年度人間関係学部 FD 活動一覧

・オフィスアワー　基本は対面ではあるが一部オンラインを組み合わせ実施
・授業担当者懇談会
（社会学専攻）　令和５年５月 27 日
（社会・臨床心理学専攻）　令和５年５月 27 日
（人間福祉学科）令和５年５月 27 日
・人間関係学部 FD 研修会（人間関係学部 FD 委員会主催）　令和５年 12 月８日
・保護者懇談会　令和５年 10 月 28 日
・学友会代表と FD 委員会・教職員との懇談会　令和５年 12 月 15 日

３．各 FD 活動の内容

１）オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学の UNIPA でこれを公開している。本年度は基本対面で一部オンラインの組み合わせにより実施した。

２）授業担当者懇談会の実施

例年前期に実施している非常勤講師の先生との授業担当者懇談会を今年度も５月 27 日に実施した。教育懇談会の内容については、令和５年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

３）人間関係学部 FD 研修会の実施

12 月８日に「次世代の大学教育へのパラダイムシフト～人と技術の活用～」という全体のテーマのもと、3 つの分科会にわかれ、それぞれの対面の座談会形式で話し合われた。3 つのテーマは「違う学年でのコミュニケーション～教員と学生の連携について～」「授業の展開の方法～AI ツールの活用など～」「教員の研究と大学教育の両立や展開の方法」である。研修会の内容と参加者の意見については、令和５年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

４）授業改善のためのアンケートの実施

令和５年度においても、前期・後期の年２回、学生による授業アンケートを実施した。授業改善のための改善アンケートも実施しており、令和５年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

5）学友会代表と FD 委員会・教職員との懇談会の実施

教育の質の更なる向上に向けて、令和 5 年度においても、12 月 15 日に学友会代表と学友会委員の学生との意見交換を行った。意見交換の内容については、令和 5 年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

6）各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためには FD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

その他、より良い授業を目指すための環境やメディアに関する設備等に関して各事務部署と連携を取っている。

7）各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。感染症対策が 5 類になった後に対面で行われた人間関係学部 FD 委員会主催の研修会では、他学科・他専攻の教員がそれぞれの研究や授業に対する内容を積極的に共有しており、引き続き今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

8）クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和 5 年度人間関係学部 FD 報告書の中でも各教員が 1 年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以上

（５）比較文化学部

本学部では主に、①授業改善のためのアンケートの実施、②授業担当者懇談会、③父母・教員懇談会 、④オフィスアワーの実施に取り組んだ。

紙幅の関係で､以下では主に①について詳細に報告する。

①「授業改善のためのアンケート」実施について

a）アンケート実施時期と実施方式

今年度は以下のような方法で実施した。

【前期】

期間： 令和 5 年 7 月 10 日(月)～7 月 22 日(土)

方法： 全ての対象科目において、学生は UNIPA からアンケート回答ができる。

授業担当者は該当科目の履修者に回答をうながす。

【後期】

期間： 令和 5 年 12 月 11 日(月)～12 月 23 日(土)

方法： 前期と同様

昨年度と同様に、いずれも、UNIPA からアンケート実施期間開始が学生に通知され、学生は UNIPA にログインしてアンケートを実施した。

アンケートの質問数は、短時間で回答することができるように原則選択式とし、設問も 10 問程度に絞られた。

前年度の設問に「８．課題に対する教員からのフィードバック（コメントや学習指導）は効果的でしたか。」を加えた。

b）実施対象：原則、ゼミを除く全授業で実施

比較文化学部では、原則として演習授業（3 年次必修の比較文化演習ならびに 4 年次必修の比較文化セミナー）を除く、すべての科目でアンケートを実施した。

c）実施科目の受講者数と有効回答数

アンケート実施科目の累計受講者数は、前期 20,536 名、うち有効回答者数 9,163 名（回答率 44.6%）であった。後期アンケート実施科目の累計受講者数は 20,743 名、うち有効回答者数 7,625 名（回答率 36.8%）であった。

d）集計

回答の集計処理は外部業者に委託した。業者からは全体および各授業別の集計結果だけではなく、所属学科・学年・授業方法（演習・講義等）・職名（専任・兼任）・クラスサイズ・年齢・設問・授業区分（教養・専門）・言語（スペイン語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・英語・韓国語・中国語）別の集計結果を得た。

e）アンケート結果の伝達

授業単位の集計結果は、成績登録期間終了後に担当教員が UNIPA で直接確認することができる。アンケート回答結果が閲覧可能になった時点で、UNIPA を通じ、授業担当教員にその旨を告知した。

f）教員からのフィードバック

上記集計結果について告知する際、集計結果に対する所感、感想執筆を全教員に対して依頼した。前期は専任教員 4 名、非常勤教員 3 名の計 7 名から、後期は専任教員 3 名、非常勤教員 3 名の計 6 名から回答があった。

g）一連のサイクル実施の報告

PDF 形式で FD 報告書を年度末に公刊している。

h）公開するアンケート集計結果について

アンケートの集計結果はそのまま本報告書に公開する。学生による意見・感想（設問 1）は、非常に示唆的なコメントが見られる一方で、ときとして感情的な発言も散見されるため、昨年度同様に掲載を見送る。教員による所感・感想は、学生のコメントに対する応答であるため、表記統一と誤字脱字の修正を除き、原則として編集せずに掲載した。

アンケートが Web 上で実施された結果、教員は自身の集計結果について即座に確認することができるようになった。ただし、類似する他の授業―たとえば同じ言語の他の授業、同じカテゴリの専門科目など―にも同様の集計結果が共通して得られるものかどうかは、にわかには確認しづらくなった。そこで、報告書には専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載している。

②授業担当者懇談会

本学部では、非常勤講師と専任教員で、授業担当者懇談会を令和 5 年 5 月 13 日（土）に対面で実施した。

③父母・教員懇談会

本学部では、保護者と専任教員で、父母・教員懇談会を令和 5 年 11 月 11 日（土）に対面で実施した。

④オフィスアワーの実施

本学部では学部のホームページ上の教員紹介各ページにオフィスアワーを掲示し、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。

その上で、学生には以下のように URL とともに周知している。

「学生が教員の研究室を訪ねやすいように空けてある時間がオフィスアワーです。オフィスアワーの時間はアポイントメント不要です。相談したいことがあれば、下記の学部ホームページの各教員のページから曜日と時間を確認して、気軽に研究室を訪ねてください。」

以上

（６）短期大学部

１．令和５年度短期大学部 FD 委員会の構成と活動方針

短期大学部 FD 委員会は家政 3 専攻から各 1 名、国文科から 1 名、英文科から 1 名の計 5 名の専任教員によって構成されている。令和 5 年度委員会では、前年度に引き続き、おおむね以下の項目を中心にして、FD 活動の実施・検討を行った。

（１）授業改善のためのアンケート（２）オフィス・アワー（３）ホームページ（４）保証人との懇談会
（５）授業公開（６）学習支援活動（７）FD 講演会、FD 研修会（８）満足度調査

２．令和５年度の FD 活動の概要

活動の詳細は、令和 5（2023）年度 FD 活動報告書第 21 号に掲載した。ここでは、その概要を記す。

（１）「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD 基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。昨年度に引き続き、学内ポータルサイト「ユニバーサルパスポート（ユニパ)」を利用してオンラインで行い、設問数は全 10 問であった。アンケートの実施期間は、前期は令和 5 年 7 月 10 日（月）～7 月 22 日（土)、後期は令和 5 年 12 月 11 日（月）～12 月 23 日（土）で行った。アンケート期間終了後に各教員がユニパで回答結果を確認した。

（２）オフィス・アワーについて

専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。学生の学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだが、今年度もコロナ禍対応中であるため、E メール等も活用して可能な限り対応し、きめ細かな支援を心掛けた。

（３）ホームページについて

今年度は、短期大学部ホームページのリニューアルを行い、明るい基調のデザインに一新した。トップ部分にはカルーセル（スライドするバナー）が採用され、強調したい内容により注意を向けさせる機能が追加された。コンテンツの管理に関しては、各学科、専攻でのイベント案内、在学生インタビュー動画、教員の著書刊行などの学術・研究成果の公表などの情報掲載を行った。

リニューアルはしたものの、ホームページ閲覧のための入り口が学院ホームページからのリンク、日本短期大学協会からのリンクしかないため、より多くの閲覧を獲得するためには、より多くのエントランスポイントが必要となる。より検索されやすくなるようサイトのキャッチフレーズに「東京の短大で栄養士になる／家政・ビジネスを学ぶ」といった文言を追加し SEO 対策を行った。他に考えられる方策としては、検索キーワードとの連動広告などがあげられる。これは短期大学部のみの問題ではないと考えられるので、全学的な調整が必要である。

（４）保証人との懇談会について

令和 5 年度は、家政科 3 専攻が保証人との懇談会を実施した。家政専攻では、学科専攻説明、クラス担任と保護者との懇談に加え、教務関係、資格関係、編入・就職活動など専攻で実施しているサポート内容

をスライド、資料配布で紹介した。また、適宜、校舎内の見学が行われた。生活総合ビジネス専攻では、教職員の紹介、専攻・資格の説明、成績表の見方、編入について、就職についてなどをパワーポイントを用いて説明した。当日に開催した「卒業生からのアドバイス」を撮影した動画も流し、1 年生の授業風景を楽しんでもらった。最後に専攻主任から令和７年度からの本専攻募集停止の報告を行った。食物栄養専攻では、2 年生の保護者には教員との懇談会後に、学生による「校外実習報告会」を参観してもらった。1 年生の保護者には、教員との懇談会後にコタカフェで「懇親会」を行った。保護者からいろいろな情報を得ることができ、良い交流の機会となった。

国文科、英文科は実施しなかった。

（５）授業公開について

今年度も、短期大学部各学科で授業公開を実施した。家政科では専任教員全員 16 名が授業を公開し、国文科では専任教員 1 名が、英文科では専任教員 1 名が公開担当した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施した。参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、今後の授業の改善に繋げた。

（６）学習支援活動について

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生たちが学ぶ短期大学部では、学生の状況や個性をふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度もそれぞれの学科・専攻において、工夫を凝らした支援活動が実施された。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

（７）短期大学部主催 FD 講演会・FD 研修会について

FD 講演会は、「短大生のキャリア形成の現状」を令和 5 年 11 月 9 日（木）にオンライン（zoom）で開催した。講師は株式会社エービーシーエデュケーションの山本みどり氏である。短大生のキャリア自律について、企業を取り巻く環境を含め具体的にお話ししていただいた。短期大学部の全員の教員が参加し、「非常に参考になった」との感想が寄せられた。また FD 研修会「授業改善を学生とともに考える」を令和 6 年 2 月 13 日（火）に対面で開催した。当日の参加者は、学生 8 名と、教員は短期大学部の学部長、学科長、専攻主任、有志の教員の 12 名で、合計 20 名であった。あらかじめ学生にはグループディスカッションのテーマを配布し、当日までに準備を依頼し、学科専攻ごとに分かれ議論した。学生からは活発な意見が寄せられ、直接学生の声を聴く貴重な機会となり、多くの示唆を得た研修会となった。

（８）満足度調査について

満足度調査は、教育成果の確認と教育環境の改善・向上に役立てることを目的として実施しており、2024 年 1 月 15 日～2 月 4 日の期間にオンラインで行った。卒業年次生を対象として無記名で実施したところ、総回答数は 93 名であった。

「全体的にみて」の項目では、「満足」が 58.0％（昨年は 52.0％）で、「やや満足」の 25.8％（昨年は 26.0％）を加えると 83.8％（昨年は 78.0％）となり、概ね満足と答えている。「満足」と答えた者の割合は、2022 年度よりも 6.0％高くなり、全体的にみた学生の満足度は上昇した。

以上